

平成 29 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的 文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象 全国 16 歳以上の男女

調査時期 平成 30 年 3 月

調査方法 一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

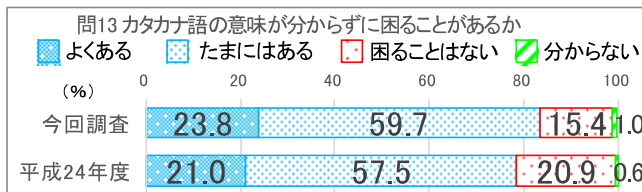
調査結果	調査対象総数	3, 579 人
	有効回答数(率)	2, 022 人 (56. 5%)

備 考 ・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

V 外来語についての意識

外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることがあるか＜問 13＞(P.52)

—83.5%が、「ある(計)」と回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

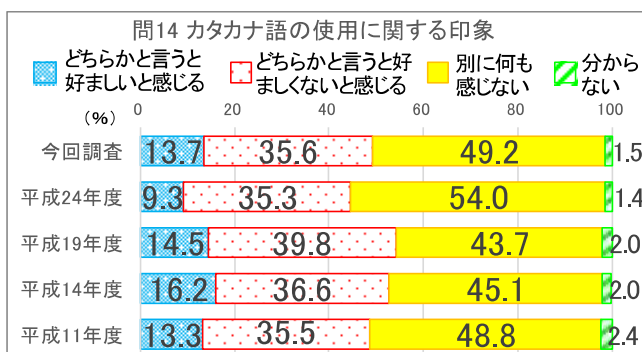
日頃、読んだり聞いたりする言葉の中に出てくる外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることが、よくあるか、たまにはあるか、それとも、ないかを尋ねた。

「よくある」(23.8%)と「たまにはある」(59.7%)を合わせた「ある(計)」は83.5%となっている。一方、「困ることはない」は15.4%となっている。

過去の調査結果(平成24年度)と比較すると、「よくある」「たまにはある」はそれぞれ増加し、「ある(計)」は5ポイント増加している。一方、「困ることはない」は6ポイント減少している。

外来語や外国語などのカタカナ語の使用についてどう思うか＜問 14＞(P.54)

—3割台半ばが「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

日常生活の中で、外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを、どちらかと言うと好ましいと感じるか、どちらかと言うと好ましくないと感じるか、それとも、別に何も感じないかを尋ねた。

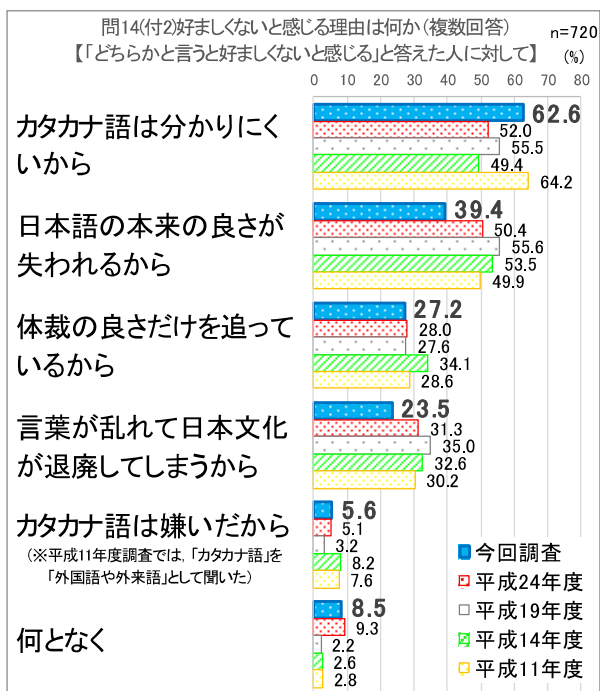
「どちらかと言うと好ましいと感じる」が13.7%、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」が35.6%となっている。また、「別に何も感じない」が49.2%となっている。

過去の調査結果(平成11, 14, 19, 24年度)と比較すると、「どちらかと言うと好ましいと感じる」は平成14

年度から、24年度に掛けては減少傾向にあったが、今回調査では平成24年度調査から4ポイント増加している。「別に何も感じない」は平成24年度調査から今回調査に掛けて5ポイント減少している。

外来語や外国語などのカタカナ語の使用について好ましくないと感じるのは、どのような理由からか＜問14(付2)＞(P.54)

—「カタカナ語は分かりにくいから」が平成24年度調査から11ポイント増加し、62.6%—



〔全体・過去の調査との比較〕

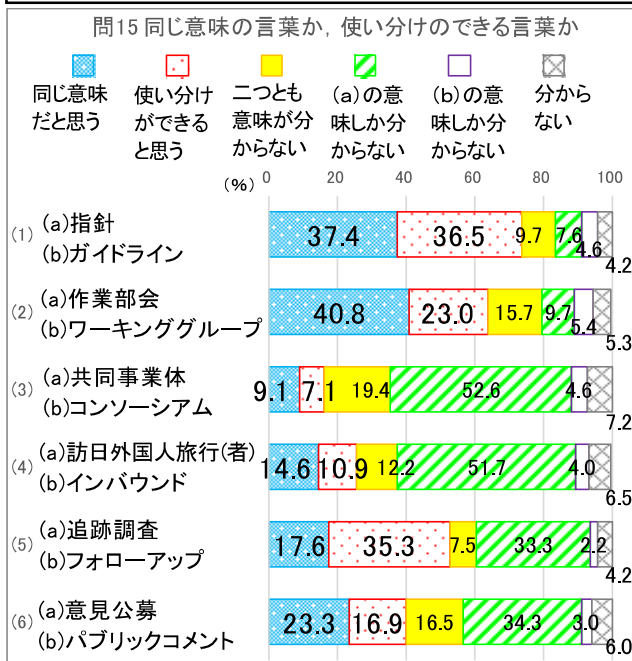
外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人(全体の35.6%)に、その理由を尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

「カタカナ語は分かりにくいから」が62.6%で最も高く、以下、「日本語の本来の良さが失われるから」(39.4%)が4割弱、「体裁の良さだけを追っているようだから」(27.2%)、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」(23.5%)がそれぞれ2割台となっている。

過去の調査結果(平成11, 14, 19, 24年度)と比較すると、「カタカナ語は分かりにくいから」は、平成24年度調査から今回調査に掛けて11ポイント増加している。一方、「日本語の本来の良さが失われるから」は11ポイント、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」は8ポイント、それぞれ平成24年度調査から今回調査に掛けて減少している。

同じ意味の言葉だと思うか、使い分けのできる言葉だと思うか＜問 15＞（P.59）

—「使い分けができると思う」が「同じ意味だと思う」を上回ったのは、「追跡調査/フォローアップ」だけ—



〔全体〕

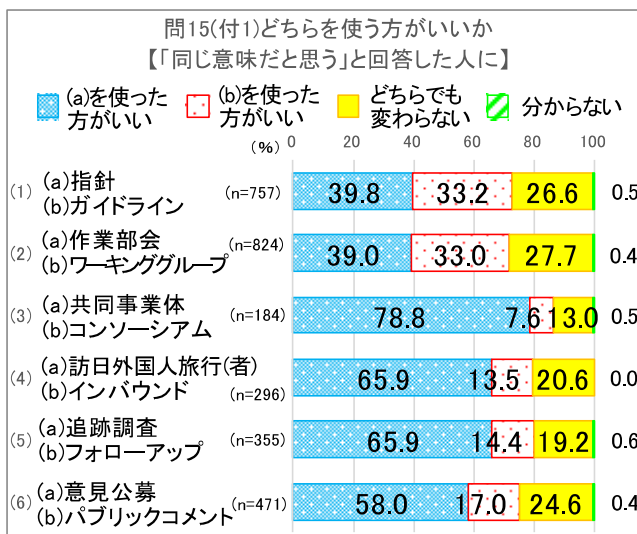
同じような文脈で用いられることのある(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ6項目について、同じ意味の言葉だと思うか、それとも、使い分けのできる言葉だと思うかを尋ねた。

「同じ意味だと思う」は、「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」が 40.8%で最も高く、次いで、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」(37.4%)となっている。一方、「使い分けができると思う」は「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」が 36.5%で最も高く、次いで、「(5)(a)追跡調査／(b)フォローアップ」(35.3%)となっている。

また、「(a)(漢字を用いた語)の意味しか分からない」は、「(3)(a)共同事業体／(b)コンソーシアム」が 52.6%で最も高く、次いで、「(4)(a)訪日外国人旅行(者)／(b)インバウンド」(51.7%)、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(34.3%)となっており、(3)，(4)，(6)については、他の選択肢の割合を上回っている。

不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉として、どちらを使う方がよいと思うか＜問15(付1)＞（P.59）

—全ての言葉で「(a)漢字を用いた語を使った方がよい」が「(b)カタカナ語を使った方がよい」を上回っている—



〔全体〕

同じような文脈で用いられることのある(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ6項目について「同じ意味だと思う」と答えた人に、役所などの官公庁が作成する文書のように、不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉としては、(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語のどちらを使う方がよいと思うか、それぞれ尋ねた。

「(a)(漢字を用いた語)を使った方がよい」は、「(3)(a)共同事業体／(b)コンソーシアム」が 78.8%で最も高く、次いで、「(4)(a)訪日外国人旅行(者)／(b)インバウンド」「(5)(a)追跡調査／(b)フォローアップ」(各 65.9%)が6割台半ば、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(58.0%)が6割弱となっており、6項目全てで「(a)

(漢字を用いた語)を使った方がよい」の割合が他の選択肢の割合を上回っている。「(b)(カタカナ語)を使った方がよい」は、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」が 33.2%で最も高く、次いで「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」(33.0%)となっている。

また、「どちらでも変わらない」は、「(2)(a)作業部会／(b)ワーキンググループ」が 27.7%で最も高く、次いで、「(1)(a)指針／(b)ガイドライン」(26.6%)、「(6)(a)意見公募／(b)パブリックコメント」(24.6%)となっている。